

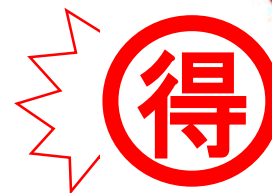
デュアルシステム 説明資料[R7]

大阪府立布施工科高等学校



布施工科高校の学び

- ★ 布施工科高校は**就職**に強い学校
- ★ **大手企業**（大卒でも難関）や**地元の優良企業**に就職
- ★ 高校生のうちに**働く力**と**自信**を身に付ける
- ★ **自分の力**を発揮できる**仕事**を見つける

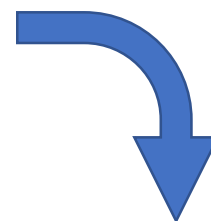


“働く”を学ぶ
布施工科



企業留学 R6スタート！
デュアルシステム

- ・ 令和3年度～5年度に試行実施
- ・ 令和6年度よりスタート
- ・ 令和7年度に2年目の実施



Go !



デュアルシステム概要



◆特徴

- ・ **学校での学びと企業での学び**により生徒の成長を加速させる
- ・ 学校で身につけた**技術力・人間性を、現場で活用する体験**を通し、**応用力・思考力・社会人基礎力の向上**を図る
- ・ 早期に社会で活躍できる**若手人材の育成**を産官学連携で推進

【実施の経緯】

- ・ デュアルシステムという、実践的な技術・技能を学ぶために、学校での教育と同時に生産現場等で学ぶ機会を設けるシステムを構築
- ・ R4年度の入学生に対して、**工科改編の特色**として、デュアルシステムを計画
- ・ **R6年度にデュアルシステムを実施し3年生が参加**するようカリキュラムを決定
- ・ R6年度に向け**試行実施**を行い、制度設計（企業様のご協力）
- ・ 大阪府教育庁の協力も受けて計画を推進



R7年度 実施での、企業様のご協力をお願いいたします



◆R7年度の実施内容

- ・ 実施日 → 毎週1日（選択デュアルシステム3時間＋課題研究3時間）
- ・ 実施時間帯 → 丸1日の実習
- ・ 期間 → 1年間（前期：4月～6月 後期：10月～12月）
- ・ 1社の人数 → 2人を原則とします
- ・ 企業数 → 20社（増減あり）
- ・ 生徒数 → 40人（参加希望者）
- ・ 実習以外の日 → 班で報告会の準備（日程の中で企業実習不可の日など）

◆試行実施協力企業数、参加者数と本校からの就職状況

R3	7社	16人	[12月の実施のため、内定者及び2年生の参加]
R4	11社	27人	[8社に就職、うち4社は参加者が就職]
R5	14社	32人	[11社に就職、うち7社は参加者が就職]
R6	16社	36人	[10社に15人応募、うち10社に参加者が12人応募]

※大前提は社会経験を積むことですが、就職にも繋がっています



◆ 日程

【前期】

- 4/10 事前説明会(校内)
- 4/17 事前指導(校内)
安全教育(校内)
- 4/24 企業実習前期①
- 5/ 8 企業実習前期②
- 5/15 企業実習前期③
- 5/22 定期考査
- 5/29 企業実習前期④
- 6/ 5 企業実習前期⑤
- 6/12 企業実習前期⑥
- 6/19 企業実習前期⑦
- 10/2 中間報告会
(校内のみで実施)

【後期】

- 10/16 企業実習後期①
 - 10/23 企業実習後期②
 - 10/30 企業実習後期③
 - 11/ 6 企業実習後期④
 - 11/13 企業実習後期⑤
 - 11/20 企業実習後期⑥
 - 11/27 企業実習後期⑦
 - 12/ 4 定期考査
 - 2/初旬 成果報告会
- 成果報告会は来校いただき参加願います
年間実施予定(案)につき
学校行事により変動あり

◆ 準備していただくこと

- ① 受入れの検討
- ② 連絡担当者の決定
- ③ 実習担当者の決定
- ④ 実施可能日程の確認
- ⑤ 受入れ書の作成
- ⑥ 実習プランの作成
- ⑦ 生徒の荷物置き場設定
(ロッカーなど)
- ⑧ 借用可能な物品の準備
(ヘルメットなど)
- ⑨ 生徒持参品の決定
(実習服・安全靴など)

◆ 企業の担当教員について

担当教員 2人が4社
(8人の生徒)を担当
(2社ずつを担当)

Z社	生徒 2人	}	教員A (1～3時間目)
Y社	生徒 2人		
X社	生徒 2人		教員B (4～6時間目)
W社	生徒 2人		

Z社	}	教員Aが担当
Y社		
X社	}	教員Bが担当
W社		



R7実施の際の実習日の流れの例

	活動	詳細
8:30	出社	自宅から出社（準備・前回の日誌の確認）
9:00	実習開始	午前の内容（適宜休憩）
12:00	昼休憩	（企業の時間に合わせる）
13:00	実習開始	午後の内容（適宜休憩）
16:00	実習終了	日誌の作成←担当者様にて確認願います
16:30	退勤	自宅へ（学校に行く必要はありません）

毎週木曜日に実施

このような観点で実習の内容を想定・検討お願いします
マニュアルP.11参照

- ★現場での実際の仕事の体験（可能な範囲で）
- ★前期：企業の魅力・仕事のやりがい・技術力・先輩とのディスカッションなどを中心に
- ★後期：実際の業務・社会の厳しさ・勤労観・責任感などを中心に

自宅から出社 → 丸1日の実習 → 退勤（帰宅）
実習日は学校へは行かず、企業へ直行・直帰

※「実習プラン」の作成のお願いとご相談をさせていただきます

R7協力企業様を募集しております。ぜひ、ご参画ください。



管理技術の学習について

R7年度に実施する3年生は、2年生で「**管理技術**」という学習をしており、デュアルシステム実習の中でも活用を図りたいと考えています。

座学＋演習の形式で、体験しながら身につける授業を実施

- 工程や作業の能率を高める

I E (Industrial Engineering) 生産工学

作業のムダを見える化する技術



- 製品や仕事の品質を高める

Q C (Quality Control) 品質管理

品質のバラツキを見える化する技術



- 製品や仕事の価値を高める

V E (Value Engineering) 価値工学

仕事の目的と手段を見える化する技術



◆ マニュアルのその他の内容について

- P. 5 その他、ご留意いただく事項
問題発生時の対応や保険対応について記載
- P. 7 FAQ
前期・後期とも原則同一企業での実施ですが、
同業他社への内定者については後期実習への配慮を検討
- P. 10 受入書
- P. 11 実習プラン例
実習の内容として含んでいただきたい観点について記載

※受入書・実習プラン・日程の様式は受け入れいただく際に別途送付いたします。



今後の日程

◆R7年度の実施に向けての日程

9月27日(金) デュアルシステムに関する質問会(リモート) 15:30より
★案内文書・メール本文に案内を記載

10月 3日(木) デュアルシステム受け入れについての連絡フォームの回答 締切
★案内文書・メール本文に案内を記載

- ①受け入れ可能
- ②受け入れ不可
- ③受け入れに向けて要相談
- ④その他(自由記述)

という選択肢にて回答をお願いします。

※受け入れ可能企業様は企業説明動画等の資料をご提供ください

10月30日(水) 以降順次 受け入れに向けた調整のご連絡・実習プランの相談
→参加希望の生徒の調整をし、実施いただくかどうかの
お返事を差しあげます。

R7年度 実施でのご協力を何卒お願い申し上げます

